市政を問う 一般質問 要旨

一般質問とは

議員が市政全般にわたり、執行機関に対し、事務の状況及び将来に対する方針等について質問することをいいます。

一般質問（要旨）につきましては、議員ごとにまとめたものを掲載しております。

これまでの会議録は、小平市議会ホームページで、閲覧・検索ができます。動画もご覧になれます。

地域防災力のさらなる向上を目指す／市道及び橋梁の安全管理

佐藤　徹議員（市議会公明党）

地域防災力のさらなる向上を目指して

質問　①市職員の緊急初動要員訓練では自主防災組織等との日ごろの連携が重要だが見解は。

②災害発生時の夜間の情報伝達・避難誘導ツールとして発光型掲示板アンブルボードの導入の検討を開始すべきだが見解は。

市長　①訓練では災害時の対応の確認、地域との意見交換を行い、連携を図っている。

②災害時に停電が発生した夜間の情報提供等に役立つほか、耳が聞こえない人などへの案内が可能になると認識しており、今後も導入に向け検討していく。

市道及び橋梁の安全管理を問う

質問　①市が管理する橋梁の床板劣化による抜け落ち予防調査の直近の調査結果と評価は。

②インターロッキングブロック歩道維持管理の現状と課題は。

市長　①全200橋のうち7橋が早期に措置すべき状態であった。適正な橋梁管理の観点から重く受けとめている。今後も定期的な点検等安全確保に努めていく。

②道路パトロールなどで破損が確認されたブロックの取りかえなど行っている。課題は車両の出入りが多い乗り入れ部の破損等が多発している状況である。

▼インターロッキングブロック

歯科検診の実態と就学援助の医療費援助について

吉瀬恵美子議員（日本共産党小平市議団）

就学援助制度の医療費援助の実態と子どもの貧困対策の拡充

質問　要治療と診断されながら治療していない子どもの背景を捉え、子どもの貧困の実態をリアルにつかむ視点で、どのように対応しているか。

教育長　ネグレクト等の虐待も考えられるので、家庭状況を総合的に捉え配慮するよう心がけている。学校では教員が子どもの様子や変化を把握し、適宜、声をかけ相談に応じている。

市長　ひとり親等の事情で養育が行き届かないことなどが考えられる。要保護児童対策地域協議会を設置し、小平市医師会等に所属してもらっている。虐待、養育の支援が必要な児童と家庭の発見等の意識啓発を行い関係機関相互の連携を強化していく。

小・中学校での歯科検診の結果と子どもたちへのフォローについて

質問　歯科検診の結果、歯の健康状態をいかに認識しているか。

教育長　小学校6年生の平均の永久歯虫歯数はここ数年横ばいの1本以下、中学生は有病率が上昇傾向で、食生活等の拡大や多忙な日常と重なり、口腔ケアが不十分になることが要因となる。今後も検診を通し、みずからの健康を守り増進できる児童・生徒の育成を目指していく。

自ら健康をつくるきっかけに健幸インセンティブを活用しよう

小野高一議員（政和会）

人生楽しく生きるために健康寿命を延ばそう

質問　①こだいら健康増進プランにおける食・栄養の分野に、具体的にはどう取り組むのか。

②生活習慣病を予防する足立区の、そうだ野菜を食べようというベジタベライフ事業の取り組みを市として検討できないか。

③運動習慣を身につけ、継続を促すための動機づけとしての報酬等について、どのような展開を検討しているか。

市長　①市報に1日に350㌘の野菜を摂取するための啓発記事を掲載する。このほか、JA東京むさし等の関係機関との連携やさまざまなイベントへの参加など、健康事業以外の場も活用し普及啓発に取り組んでいく。

②各種健康診査の受診率の向上を図るとともに、食の面から高血圧、糖尿病等の予防に取り組んでいる。引き続き、足立区の事例等も参考にしながら、より効果的な事業を研究していく。

③運動習慣の意識づけや継続をしてもらうための手法の1つとして、環境の整備とともにインセンティブを活用することは、一定の効果があるものと認識している。全国的にも多くの自治体の実施例がふえていることから、これらを参考に、より効果的な仕組みを検討していく。

高校生へ労働対価としての経済支援制度を／仮設住宅は十分か

伊藤　央議員（ムサシ）

経済的な不安を抱える高校生への支援について

質問　①小平市在住の高校生の貧困率は。

②高校生がいる経済的に苦しい家庭への支援制度は。

③公共施設で高校生をアルバイトとして雇い報酬を学費等に充てる制度は考えられないか。

市長　①市独自のデータはない。

②生活保護世帯に対して、入学金、授業料、学用品費などを支給しているほか、都の補助金を活用し、学習塾費用や大学受験料の支給を行うなどしている。

③高校生を臨時職員として任用することは可能である。賃金は直接本人に支払うことになる。

震災時の応急仮設住宅について

質問　①首都直下型地震発生時、必要な応急仮設住宅の戸数は。

②何世帯分が確保できるか。

③仮設住宅の建設予定地は。

④近隣市と連携し、応急仮設住宅の建設計画が必要では。

市長　①おおむね2千戸を想定。

②おおむね1千7百世帯分。

③公園、緑地、広場及び国や東京都が所有する用地。

④市域内で対応困難な場合は区市町村間で融通しあうが、都を通じ調整する。あらかじめの計画策定は考えていない。

子どもたちの居場所を広げよう／動物殺処分ゼロを進めよう

幸田昌之議員（市議会公明党）

保護者が安心できる子どもたちの居場所を広げよう

質問　①児童館は小学校区ごとに必要と考えるが市の見解は。

②学童クラブの全学年受け入れについての見解は。

市長　①児童の健全育成のため児童館の必要性は認識している。子ども広場と児童館で地域的なバランスを図るよう努めている。

②待機児童を出さないことを最優先とし、障害児は全学年、小学3年生までは定員を超えて受け入れている。全学年の受け入れはさまざまな課題がある。

動物殺処分ゼロの施策をさらに進めよう

質問　①動物愛護団体と協力して犬猫の譲渡会を開催しては。

②飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成の実績は。

市長　①まずは東京都動物愛護相談センターが実施している譲渡事業の情報収集と必要な人への情報提供に努めていく。

②昨年度、本年度8月末現在はそれぞれ不妊手術16件、7件、去勢手術17件、7件、補助金額は14万7千円、6万2千4百円。

【掲載分以外の質問項目】

○市民にとっての生活道路の整備を進めよう

小平市の観光まちづくりについて／結婚支援

中江みわ議員（フォーラム小平）

小平市が目指す観光まちづくりの発展を問う

質問　①こだいら観光まちづくり協会の役割とは何か。

②特産品を一堂に取りそろえた販売施設が必要だが見解は。

③市の認知度等を高めるため市内外にPRする取り組みは。

市長　①訪れたい、住み続けたいと思われる魅力あるまちづくりの推進等の役割を担っている。

②JA東京むさし小平ファーマーズ・マーケットがアンテナショップの機能を有している。

③こだいら観光まちづくり協会が構築したポータルサイトなどで、認知度向上に努めている。

結婚支援の充実について

質問　①結婚支援について現在行っていることと今後の展望は。

②市独自のオリジナル婚姻届を実施しないのはなぜか。

③ルネこだいらなどを提供した結婚式の開催について見解は。

市長　①昨年度はペアダンスの出会いのイベントを行った。より効果的な支援を検討していく。

②民間業者等のホームページから独自の婚姻届がダウンロードできるので考えていなかった。

③小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき検討する中で研究していく。